

令和元事業年度業務の実績に関する評価結果における課題・意見への対応状況

区分	項目別評価における課題・意見（小項目番号）[委員会評価]	掲載頁	各関係部局等における対応状況
教育	【教育内容・方法の改善に資する取組の推進】（No.4） [4]		
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、課題探究型地域創生人材育成に向けて、学生の主体的な学修を促すアクティブ・ラーニングの推進に取り組むとともに、自己評価ループリックによる主観的な評価に加え、より客観的な評価手法の確立に取り組まれない。 	2	<p>【大学教育実践 C】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの推進については、これまでの主な取組を継続するとともに、新たに、課題探究型地域創生人材自己評価ループリック並びに客観的外部評価テストを導入し、学生の学修成果に係る評価の取組を開始している。
	【学修時間の実質的な増加・確保とその適確な把握】（No.8） [3]		
	<ul style="list-style-type: none"> （学生アンケート調査では、学生の主体的な学修時間が徐々に伸びており、また、ラーニングコモンズの利用学生数が増加するなど、取り組みの成果が上がっている。）一方で、主体的な学修を「全くしていない」学生も一定割合いることから、各学部・学科ごとに詳細に要因を分析し、その結果に基づき、授業改善や学修環境の整備を進め、引き続き、学生の主体的な学修の促進に取り組まれない。 	3	<p>【大学教育実践 C】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学的な取組の一つとして、授業概要（シラバス）における予習・復習等に関する記載の充実により、授業時間外学修時間の増加・促進に努めている。 <p>【各学部・学科・コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業によって学生の学修環境が大きく変化しており、それを踏まえた分析と対策を検討している。（地域文化コース・国際文化学科） ・学科・コースFDの充実、学科独自の学生アンケート調査により主体的な学びに繋がるカリキュラムの充実を検討している。（健康科学コース・学科） ・授業改善に向けた学部独自の授業アンケート調査を後期に実施し、令和元年度の結果と比較することで問題点の明確化を図った。また、引き続き、令和2年度後期に学生アンケート結果を全教員に周知するとともに、学科・コースによっては独自のワーキンググループ等により改善に向けた取組を進める。（生物資源科学部・生命環境学部） ・オンライン（遠隔）講義において、学生の主体的学修時間が増えるよう学部内で意見交換を行っている。（保健福祉学部） ・TBL、事前学修を前提とした授業時間内での討論、協働学修、模擬患者演習、シミュレーションによる教育等、学生が主体的に学修に取り組めるよう、授業に様々な教育手法を取り入れている。また、様々な教育手法による学修成果の評価が適切に行えるよう、外部講師によるパフォーマンス評価のオンライン研修会を開催した。（看護学科） ・チューターによる個々の学生との後期期初面談を基本的に対面で実施し

区分	項目別評価における課題・意見（小項目番号）[委員会評価]	掲載頁	各関係部局等における対応状況
			<p>た。具体的には、学生から提出されたキャリア・ポートフォリオ・ブックの記載内容に基づき、チューターが学生による振り返りをファシリテートし、助言・指導を実施した。(理学療法学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段階的及び主体的な学修を促すため、専門教育科目の4科目の配当年次を変更した。(作業療法学科) ・オンラインで実習を行うにあたって、従来の対面実施での学生の主体的な学修にできるだけ近づけるため、関係教員で実施の方法や教材について検討した上で実施した。(コミュニケーション障害学科) ・オンライン授業の導入に伴い、事前学修課題、事後学修課題を提示して主体的な学修を促進する授業改善に努めた。授業への参加状況が気になる学生に対しては、その都度チューターへ連絡し情報共有を図りながら個別対応を行い、時機を捉えた学修支援を行った。(人間福祉学科)
【一貫した学士課程教育の推進】(No.20) [3]			
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域社会が求める実践力を有する人材の育成に向けて、国家資格や教員免許の取得支援など、学部・学科を挙げた組織的な取組を進められたい。 	4	<p>【各学部・学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習、博物館実習において、事前・事後学修を実施している。また、教員免許取得希望者に対し、授業時間外の勉強会等を開催し、学修を支援している。(地域文化コース・国際文化学科) ・学科・コース独自の国試対策、教員採用試験対策、公務員採用試験対策等を引き続き実施している。(健康科学コース・学科) ・コロナ禍において前期は予定の取組の一部(実務家教員による講義)のみを実施したが、後期は資格取得支援を中心に、個人受験者のサポートや資格ガイダンス講座の開講等を実施している。また、副専攻プログラムにおいて、情報系資格取得の支援を行っている。(地域産業コース・経営情報学部) ・バイオ技術者検定の学内実施(令和2年12月)に向けて受験支援を行った。一方、環境分析士はコロナ禍にあった前期に受験者の募集を行ったものの十分な受験者が集まらず学内実施は行えなかった。次年度以降も引き続き、バイオ技術者検定や環境分析士の資格取得に向けた専門科目講義内での支援を行う。(生物資源科学部・生命環境学部) ・新型コロナウイルス感染防止策を講じて、学内でのグループ学修ができるよう環境整備を進めている。(保健福祉学部) ・看護師国家試験の模擬試験における解剖学の正解率の低さに対し昨年度4年生に実施した「解剖学セミナー」が好評であったため、令和2年度は9月

区分	項目別評価における課題・意見（小項目番号）[委員会評価]	掲載頁	各関係部局等における対応状況
			<p>と1月の2回にわたり実施した。看護師国家試験への早期取組として、3年生を対象とした低学年模試を11月に実施した。（希望者37名が受験し、18名が学内で、19名が自宅で受験した。）また、4年生の国家試験対策として、看護師模擬試験を4回、保健師模擬試験を3回実施した。いずれも3密を避けるため自宅受験とした。（看護学科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策講座，定期的な模擬試験，グループ学修，要支援学生の早期発見・共有及び学科教員による個別支援を実施した。（理学療法学科） ・国家試験対策（グループ学修，個別支援，模擬試験等）を学科全教員で実施した。（作業療法学科） ・国家試験対策として，模擬試験，グループ学修などをオンラインで，試験問題を学生へ送付するなどにより実施した。（コミュニケーション障害学科） ・社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験対策として，①週1回のオンライン学習会，②模擬試験（後期から対面），③夏季休業期間中の課題提示，④個別面談等を計画的・組織的に実施した。（人間福祉学科）
教育	【海外留学等の促進】(No.26) [2]		
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き，新型コロナウイルス感染症の動向に留意しながら，学生の海外派遣や留学生受入に向けた環境整備を進めるとともに，国際交流協定締結校との交流の活発化などを通じて，キャンパスの国際化を積極的に促進されたい。 	5	<p>【国際交流C】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の海外渡航情報や入国制限措置，派遣先の入国制限措置等を注視しながら，条件が整えば迅速に対応できるよう準備を進めるとともに，欧米圏等の大学との交換留学協定の拡充や国内外の日本語学校等との連携による正規留学生の確保等，学生の海外派遣や留学生受入に向けた環境整備を進める。また，海外大学協定校等と連携して，オンライン交流会を積極的に実施する等，キャンパスの国際化の推進を図っていききたい。
	【定員充足率の改善】(No.30) [2]		
<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度（総合学術研究科）の定員充足率は，81.3%に上昇しており，一定の取組の成果は認められるものの，目標には達しておらず，引き続き，専攻ごとに課題や要因を分析して，その改善を図るとともに，積極的な広報活動を通じて，入学者の確保に取り組まされたい。 	6	<p>【総合学術研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き，大学院進学による学生側のメリットを学部生に的確に伝えるなど，内部進学者向けの説明会の充実を図るとともに，各専攻の強み（例えば，高校教員の学び直しや研究インターンシップの拡充による先端研究従事など）を活かした定員充足率の向上を目指している。 	

区分	項目別評価における課題・意見（小項目番号）〔委員会評価〕	掲載頁	各関係部局等における対応状況
教育	【経営学分野の機能強化】(No.32) [4]	6	<p>【経営管理研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症で海外との渡航制限があるにもかかわらず、令和元年度に引き続き、海外大学との連携科目の拡充及び教育プログラムの更なる充実を図っている。 ベトナム国家大学ハノイ校とのオンライン国際フォーラム（7月）、スタンフォード大学連携プログラムの開講（5月～9月）、並びにタイ・チュラロンコン大学とのオンライン交換授業（11月）を実施した。 8月には、コスタリカの国連平和大学と新たに協定締結を行った。その際、オンラインで記念フォーラムを開催し、MBAの持つ経営学視点と国連平和大学の持つ平和学視点の学術的・実践的融合を目指す新しいコンセプトの模索を試みた。 市町等との連携による地域経営人材の育成については、三原市「浮城塾」が新型コロナウイルス感染症により休講になったものの、福山市では新しく10月より「備後地域次世代リーダー養成講座」（全10回）を開始した。また、広島県農林水産局と連携し、農業者の経営力向上を支援するため「アグリ・フードマネジメント講座～ひろしまファーマーズテーブル～」を引き続き開講している（11月～3月）。広島県健康福祉局と連携し、公的病院の経営人材を育成するため「医療経営人材養成プログラム」を新たに開講した（10月～2月）。HBMSプロジェクトデザインセンターが主催して、HBMS特別公開講座「リーダーシップとキャリアの未来」（中国地方限定募集）を開催し、地域リーダー育成に取り組んでいる。
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、海外大学との連携科目の拡充等を通じて、教育プログラムの更なる充実を図るとともに、市町等との連携を強化し、地域の経営人材の育成や地域課題の解決に取り組まれない。 		
研究	【競争的資金の獲得支援】(No.39) [4]	7	<p>【地域基盤研究機構】</p> <ul style="list-style-type: none"> 競争的資金の公募情報を共有するとともに、デジタルサイネージで情報を提供している。 政府研究開発プロジェクトなどの補助金情報については、国等から直接教員に申請情報の提供が行われるようになった。 名誉教授による申請書の添削や外部講師による科研費セミナー等を継続して実施している。 <p>【各学部・学科・コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部研究費を用いた学術論文発表、外部資金への申請9件に対して、奨励研
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、教員に対するインセンティブの強化や申請書の作成支援などを通じて、競争的資金の積極的な応募と獲得を促進されたい。 		

区分	項目別評価における課題・意見（小項目番号）[委員会評価]	掲載頁	各関係部局等における対応状況
			<p>究費を支給した。(経営情報学部)</p>
地域貢献・大学連携促進・学生支援	<p>【公開講座等の質的充実】(No.53) [3]</p>		
	<p>・引き続き、多様化する学習ニーズの把握に努め、公開講座の質的充実や受講者の利便性に配慮した改善等を行い、リカレント教育や生涯学習の一層の推進を図られたい。</p>	<p>8</p>	<p>【地域基盤研究機構】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施手順をキャンパスごとに定めた。受講者アンケート調査を実施し、講座内容及び運営の改善を図るとともに、対面による公開講座数が減少しているが、オンラインや3密を回避するなど工夫して実施している。リカレント教育については、履修証明プログラムを運営するとともに更なる展開を図るためニーズ調査を開始している。 <p>【各学部・学科・コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、隣接する分野の教員が連携を図ることにより、多様なテーマに基づく講座を企画していく。(地域文化コース・国際文化学科) ・学習ニーズの把握に努め、公開講座(連続講座)を引き続き実施する。(健康科学コース・学科) ・高校生のニーズを踏まえた、高校生向け公開講座をオンデマンド形式で実施した。(地域産業コース・経営学科) ・今年度は公開講座(連続講座)を応用情報学連続ミニゼミナールとしてオンラインで実施した。学習ニーズを把握して内容・開講形態等柔軟に企画・運営していきたい。(地域産業コース・経営情報学科) ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年実施している大規模イベントの中止が相次いだが、制限緩和に合わせ、尾道市シルバーリハビリ体操事業、三原市主催連続講座、三原本町体力測定会、三原市健康診査、大崎上島健康診査等を感染予防に努め実施した。(理学療法学科) ・公開講座、県大教養スクールをオンラインと対面で開催した。(作業療法学科) ・「オンライン三原シティカレッジ」、「オンライン公開講座」に、受講者の学習ニーズに応じたテーマの講座を提供した。(人間福祉学科)

区分	項目別評価における課題・意見（小項目番号）[委員会評価]	掲載頁	各関係部局等における対応状況
地域貢献・大学連携促進・学生支援	<p>【地域課題の解決と研究成果の還元】(No.55) [3] 【連携機能の強化と地域活性化への貢献】(No.56) [3]</p>	9	<p>【地域基盤研究機構】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の地域活動については、自治体等から参加が求められているが、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための県立広島大学活動基準」の課外活動条件下での活動となっている。フィールドでの課題発見体験が難しいなか、教員がフィールドでの情報を動画として提供し、オンラインでワークショップを開催するなど、自治体等と協議をしながら、関係の事業を進めている。 また、学生参加を必須とした、地域戦略協働プロジェクト実施後の追跡調査を行い、学生が参加する際の課題を調査している。 <p>【各学部・学科・コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮島学センターとの連携により、地域の文化施設の運営にボランティア等として参画する機会を用意し、学生自らが課題を発見できるよう促している。(地域文化コース・国際文化学科) ・コース・学科内地域連携委員等で地域の要請に対する対応方針を検討し、カルビーフューチャーラボと連携した新商品企画・開発活動、ミハラゴーマルシェにおけるサムライゴゼン弁当の販売活動、広島市内のホテルと学生のコラボレーション「ランチ&いちごスイーツ食べ放題」の企画等を実施した。また、学生が広島県教育委員会や広島市水産課主催のレシピコンテストに応募し、令和2年度「ひろしま給食100万食プロジェクト」協賛企業・団体特別賞、「広島湾七大海の幸レシピグランプリ」を受賞している。(健康科学コース・学科) ・生命環境学部では従来、フィールド科学教育プログラムや環境科学セミナーにおいて地域課題の発掘や解決に対する学生の意識の醸成を図っており、これらの科目群の生物資源科学部の新カリキュラムへの継承を通して、引き続き、地域課題の把握や解決に対する学生の意識の醸成を図る。(生物資源科学部・生命環境学部) ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年実施している大規模イベントの中止が相次いだが、制限緩和に合わせ、三原市主催連続講座(学生2名)、三原本町体力測定会(学生5名)、三原市健康診査(学生延べ10名)等、感染予防に努めながら、学生の主体的な地域活動参加機会が得られた。(理学療法学科)
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学生による主体的な地域課題の把握や解決策の検討など地域貢献・連携活動の更なる促進を図りたい。 		

区分	項目別評価における課題・意見（小項目番号）[委員会評価]	掲載頁	各関係部局等における対応状況
			<ul style="list-style-type: none"> ・学生が民間企業（8回）、特別支援学校（4回）と連携し、登校自粛中の、あるいは障害のある児童に対して PC 操作等生活・学習上の課題を把握し、援助した。（作業療法学科） ・社会福祉士養成、精神保健福祉士養成とも現場配属実習を取りやめ、学内での代替措置プログラム実施とした。同プログラムでは、現場の専門職の思考過程を把握し理解を深める事例検討を行った。そして、地域課題の把握や解決策を考える事例検討を取り入れた。その他、現場の実習指導者や当事者とオンラインで繋いで、現場と地域に関する理解を深め課題解決に取り組む力を養成した。（人間福祉学科）
【外部資金の獲得】(No.80) [4]			
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、多様な手法による外部資金の獲得を促進し、法人運営の安定性・自律性を高めるよう取り組まれない。 	10	【地域基盤研究機構】 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト研究センターを中心に、大型補助金の申請・獲得が行われている。JST 主催の新技术説明会（特許）でのオンライン発表など、産学官事業の積極的な参加を支援している。
【危機管理・安全管理】(No.89) [3]			
法人経営	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学長のリーダーシップのもと、大学を挙げて、学生の学修機会の確保と、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の両立に取り組まれない。 	11	【本部総務課】 <p>新型コロナウイルス感染症の感染防止対応として、「新型コロナウイルス感染症対応としての県立広島大学活動基準」を策定し、同基準に基づく感染防止対策を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年4月22日に活動基準を策定 ・活動基準は、国・県の方針等を踏まえ適宜見直しを実施 <p>学生の学修機会の確保については、緊急事態宣言下でも授業を提供できるよう、既存の学内リソース（アプリケーション）を活用し、次により実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度前期授業は、原則オンラインで実施（令和2年5月7日～） ・前期期間中、面接（対面）でなければ実施できない授業（実験等）について、一部面接（対面）で実施（令和2年6月19日～） ・令和2年度後期授業は、原則ハイブリッド授業*で実施（令和2年9月24日～） <p>※全15回の授業のうち、面接（対面）授業とオンライン授業を組み合わせ実施する「面接・遠隔ハイブリッド授業」又は全15回すべてオン</p>

区分	項目別評価における課題・意見（小項目番号）〔委員会評価〕	掲載頁	各関係部局等における対応状況
			<p>ライン授業だが、リアルタイムオンライン授業とオンデマンドオンライン授業を組み合わせる「オンライン・ハイブリッド授業」</p> <p>感染防止対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、テレワークや時差出勤、執務室の分散により、3密対策を実施 ・入構経路を限定し、入構者の記録を徹底するとともに、校舎入口に設置したサーマルカメラによる検温を徹底 ・各講義室等の出入口にアルコール消毒液を設置し、手指消毒を徹底 ・学生及び教員にフェイスシールドを配付するとともに、授業を実施する講義室や共有スペースでは、席の間引き、換気機器の設置、講師と学生の間にはアクリル板の設置、等の対策を実施 ・健康観察のためのスマホアプリを独自に開発 <p>感染防止対策の中、学生の学修機会を確保するため、次の対応を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業受講のため、ノートPCやモバイルルータを貸出 ・図書館の学外者による利用を中止し、学生及び教職員の利用を許可制で再開（令和2年5月15日～） ・学内講義室へ無線LANを設置し、学内でオンライン授業を受講できる環境を整備